

市役所の仕事改善します

久慈市は今、厳しい財政状況にあります。今までと同じようにお金を使い続ける、あと数年で市の貯金（基金）がなくなる可能性があります。そのため旧久慈市では、今までの仕事の内容を見直し、少しずつ改善していくための「市政改革プログラム」を平成15年度に策定しました。新久慈市ではプログラムを引き継ぎ、行動に移しています。本号では18年度の財政状況と市政改革プログラムの取り組みをお知らせします。

基金が底をつく可能性

市の財政が苦しくなりはじめたのは、バブル経済が崩壊して不況が長く続いたこと、少子高齢化などにより税金の収入が減ったことなどが原因です。それでも、市はこれまでと同じ位のサービス水準を保つてきました。税金の収入などよりも支出が多い状態が続きましたが、今までためていた基金を充てて賄ってきました。

ところが、このまま基金を使い続けると、あと数年で底をつく可能性があります。

財政の硬直化が進行

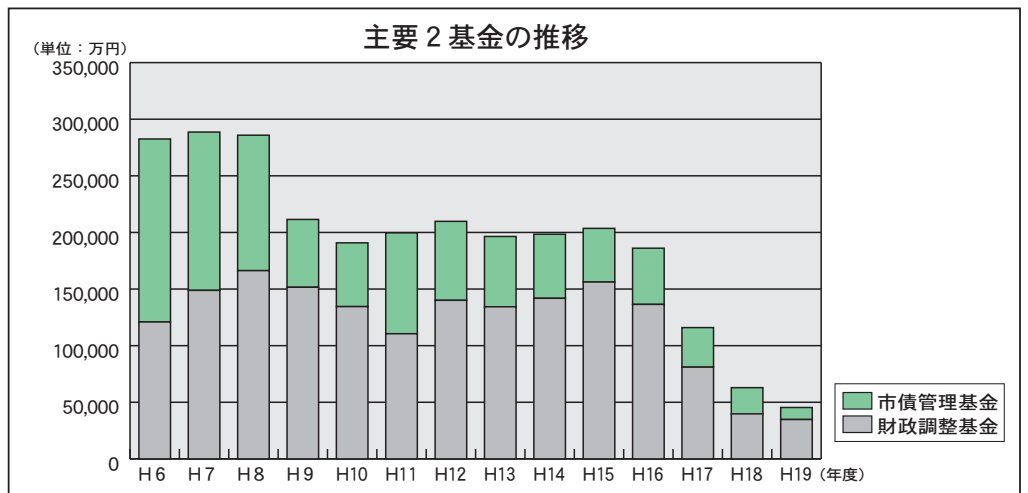
市の仕事は、市民の皆さんから納めていただく税金や、国からの地方交付税、市債（借金のこと）を発行するなどして運営しています。一方、市の仕事でかかる経費は、性質別で見ると、義務的経費と

投資的経費、その他の経費に分かれます。

このうち、市税などの使用みちの決まっていない一般財源に対して、義務的経費など經常的な経費の割合がいくらかを表したものを（財政指標）を「經常収支比率」といいますが、その比率が80%以上になると、新しい需要に対応しづらくなるといわれています（財政の硬直化）。本市の現在の經常収支比率は88・7%です。すから、このままでは新たな事業を行うことが難しくなります。

少しずつ健全化しています

旧久慈市では平成15年度か



【グラフの説明】このグラフは、主要な2つの基金の残高を表したものです。基金とは、特定の目的のために積み立てたり、予期しない収入の減少や支出の増加に備える財産や資金のことです。長期的な財政運営を計画的に行うために設置しています。

■市債管理基金＝将来の市債の償還などのために備えて設置する基金。
 ■財政調整基金＝財源不足が生じる年度に活用するために設置する基金。決算で剰余金が生じたときは、全部または一部を積み立てることになっています。

(注) ■義務的経費 人件費や公債費など固定化した経費
 ■投資的経費 道路の建設や災害復旧への投資など、その効果が短期的に終わらない経費
 ■經常収支比率 市税などの一般財源に対して、義務的経費などの割合がいくらかを表したもの

ら「市政改革プログラム」を策定し、市の仕事を見直してきました。プログラムは新市に引き継がれ、内容は、事業の改善や職員の意識改革など多岐にわたります。

本年度の予算では、18年度の予算に対して約3億1200万円の削減を削減しました。0万円の歳出を削減。事業を統廃合して約2000万円を削減しました。2ページでは18年度の財政状況を公表します。また、3ページでは市政改革プログラムによる「改善」の内容をお知らせします。



平成19年 No.29

[ホームページ] <http://www.city.kuji.iwate.jp/>